



お食い初め(百日祝い)の儀式

お食い初めは、生まれてきた赤ちゃんが生涯食べることに困らないようにという願いを込めた食を中心として儀式です。

家族が集まり、赤ちゃんへ食べる真似をさせてお祝いします。



お食い初めの器

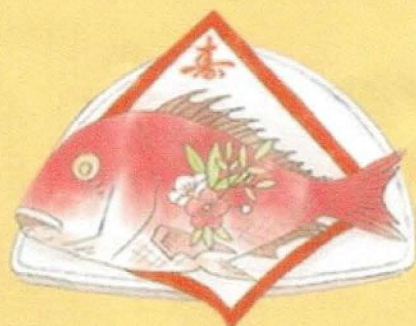
お食い初めの主役の赤ちゃんが男の子か女の子かによって器の色が違ってきます。

男の子は赤、女の子は外側が黒、内側が朱の器が正式なお食い初めの膳の色です。

お料理を赤ちゃんに食べさせる真似をするのに、祝い箸(柳箸)を使います。

白木の柳箸は、古代より霊のやどる邪気を取りのぞく木といわれ、また使っていても折れにくいことから、丈夫に育つようにと願う気持ちからお食い初めにぴったりの箸として使われます。

お食い初めの決まり事



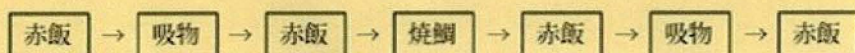
お食い初めを食べさせる真似をする人

できれば養親(やしないおや: 親族の中で一番の長老者、男の子であれば男性、女の子であれば女性)に、その役割をしていただくのが通常の決まりですが、年長者がいない場合、お父さんとお母さんが食べさせる真似をさせてもまったく構いません。

お食い初めの順番

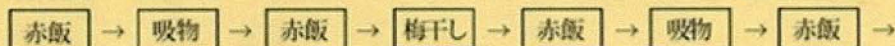
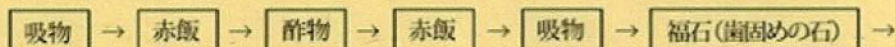
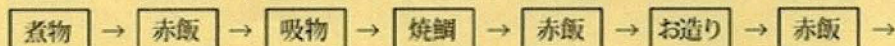
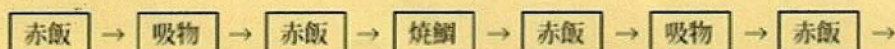
お食い初めは一汁三菜が基本ですが、近年食文化の流れからさかな類(おかず)が増えてきています。

【基本】



を三回繰り返す。

【近年の流れ】



※あくまでも食べさせる真似だけです。